

ポスト・コロナ社会と国の役割

2020年10月9日

津田塾大学

森田 朗

コロナ危機は、社会を不可逆的に変える。それに応じて、国の役割も見直されるべき。

◆ 政策評価について

政策（制度）は、一定の社会環境を前提として策定されている。それが、その社会環境の下で有効に機能しているか否かを評価するのが政策評価。

前提とする社会環境が大きく変わったとき、当然、政策や制度は機能不全に陥る。そのような場合に、従来の基準で政策や制度を評価することは意味がない。

今は、そのようなとき。ゆえに変化する社会環境を見据えて、新たな制度デザインを考えるべき。それも広義の政策評価。

- コロナ以前から、基盤的な制度の劣化が見られた。
 - 人口減少、高齢化、財政難等の社会環境の変化
 - 土地所有、金融、高等教育、入札、公務員等の制度
 - 技術革新、デジタル化への乗り遅れ
 - 紙とハンコの文化
- コロナ危機が一気に状況を変える
 - 移動、接触の制限
 - ⇒ 国民の行動変容、産業構造の変化
 - 急激な変化に伴うストレス
 - ⇒ しかし、大改革を行う絶好の機会

- 産業：観光、外食、交通産業へのダメージ大きい
通信、情報産業は拡大
- 労働：テレワーク、移動コストの削減、オフィスの縮小
労務管理（時間からJobへ）、
- 教育：オンライン授業、教育の時間空間的制約からの解放
- 医療：コロナ対応による医療崩壊、
受診抑制による医療崩壊、オンライン診療
⇒ 医療保険財政と診療報酬制度の抜本的な改革の必要

- 国の役割の変化

公衆衛生—伝統的に最も権力性の強い行政
目的は非感染者の生命と健康の保護
裁判を経ることなく私権、自由の制限が可能

- 戦後の人権保護、国家に対する信頼性の欠如
 - 戦前の経験 ⇒ 20世紀前半までの国家イメージ
 - 統制国家、監視国家 ⇒ 国家からの自由
- 20世紀後半からの福祉国家 = 国家による見守り
 - 憲法25条健康で文化的な最低限度の生活の保障
 - 社会保障、福祉、所得再分配
 - きめ細かい国民のケア = 国民についての詳細な情報が前提
 - 公正、平等、迅速、効率的な行政サービスの提供
 - 国民ID（マイナンバー）制度
- コロナ危機——災害時の国民に対するケア
 - ⇒ より積極的な国の役割 信頼できる情報管理の仕組み
 - ハイリスク者の隔離 ⇒ コンタクト・トレーシング